

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5820m付近の強風軸に対応した前線が、華中～九州～小笠原近海にのびており、前線上の低気圧が東シナ海をゆっくり東進。九州北部では、非常に激しい雨を観測。
- ② 中国東北区には500hPa 5640m付近の寒冷渦があって南東進。
- ③ 非常に強い台風第7号がフィリピンの東をゆっくり北上。また、台風第8号がマリアナ諸島を西進。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項②の寒冷渦は次第にトラフとなり、26日は日本海から北日本付近に進み、27日は千島近海に進んで

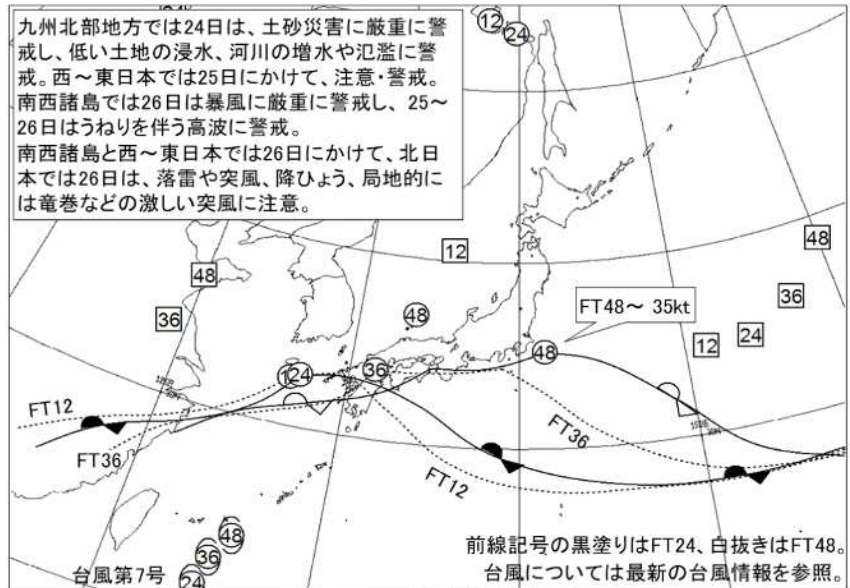
再び寒冷渦となる。1項①の低気圧は25日朝までに九州北部地方付近に進み、前線は本州の南岸付近まで北上。この低気圧はその後不明瞭となるが、25日夜までに上層トラフと対応する別の低気圧が日本海西部に発生し、26日夜には北日本付近に進む。さらに別の低気圧が、25日夜までに前線上の関東の東に発生して26日にかけて日本の東を北東へ進む。前線や低気圧に向かう下層暖湿気や上層寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴う激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。前線や低気圧の影響が大きな九州や本州の南岸付近を中心に総降水量が多くなり、特に九州北部地方では24日昼過ぎにかけて、線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性がある。九州北部地方では24日は、土砂災害に厳重に警戒し、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒。西～東日本では25日にかけて注意・警戒。南西諸島と西～東日本では26日にかけて、北日本では26日は、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。低気圧や前線の周辺では強い風が吹き波が高くなる所がある。西日本では26日にかけて、東日本では25～26日は、強風や高波に注意。

② 1項③の台風第7号は、25～26日は強い勢力で沖縄地方に接近し、26日は暴風域を伴って奄美地方に接近する。このため、南西諸島では、非常に強い風や猛烈な風が吹き、大しけとなる所がある。また、台風第8号は、25日夜にかけて日本の南へ進み、26日は日本の南を北上。これらの台風周辺から伝搬するうねりの影響で、西～東日本太平洋側でも波が高くなる所がある。南西諸島では26日は暴風に厳重に警戒し、25～26日は高波に警戒。西～東日本太平洋側では26日は、高波に注意。なお、2つの台風の相互作用により、今後進路予想が複雑となるおそれがあることにも留意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(06時からの24時間)：四国250、近畿・九州北部200、東海170、九州南部150、中国100mm。② 波浪(明日まで)：沖縄7、奄美4m、近畿3m。

5. 全般気象情報発表の有無 全般気象解説情報(大雨・落雷・突風)を5時頃に、全般気象解説情報(台風第7号)を6時頃に発表予定。



主要じょう乱解説図